

『地域の茶の間』における新しい生活様式の実践

～基幹型地域包括ケア推進モデルハウス「実家の茶の間・紫竹」での実践～



◇玄関で手指の消毒



◇マスクは必ず着用
受付でも検温が可能

参 加 票	
日時	令和 年 月 日 時 分 ~ (予定) 時 分
氏名	区
電話番号	
○今日の体温は? _____ °C	
○体調の変化はありますか? いいえ はい	
具体的な変化 例: 咳が出る	

◇参加票により
体調の確認と連絡先などの把握



◇当番（スタッフ）と
確認しながら参加票を記載

取組みのポイント

- 令和2年6月1日
- 新型コロナウイルス感染防止を踏まえた「実家の茶の間・紫竹」
- 実家の茶の間 代表 河田 珠子
- 9時30分より 当番打ち合わせ（当番は手上げ方式）
今まで通り、すべての参加されている方に、できることを一緒にやる習慣を大切にすることで、そのことが結果的に感染予防につながります。
- 1、アルコール消毒（朝、昼、夕方、その他随時）は、手に触るところすべてにコロナウイルスがあるという前提で手すり、ドア、机、椅子の手すり、トイレ便器や手に触れるところ、手洗い場の蛇口、玄関のボールペン、検温器、押して歩く椅子、電話機、筆記用具、ボールペン、コーヒーの持ち手、等々）
机の配置、座る位置は2メートル離し、向き合わないよう設定し、きれいな張り紙で目印や、座布団の敷に注意。
 - 2、受付は当番はノートではなく、用紙に必要事項の記述式です。非接触体温計も用意しましたので、ご自宅ですべてできなかった方に検温をお願いします。正しい数値をお伝えし、記述確認をお願いします。
 - 3、船の用意（マスクを外す機会が増えるためお菓子はなし）、船は一人ひとりに袋に入れて、取り回しはしない。船の袋詰めや、テーブルの花も、今までと同じように、参加されている方に出番づくりを。その際に、またアルコール消毒ペーパーも各テーブルに。
 - 4、常時、換気に注意
 - 5、いつの間にか座る距離が近づいたり、お話を夢中になってマスクを外したりしています。その場でさらっと注意する。
 - 6、座る距離が離れてお互いの交流が難しく、その環境に慣れていないため、孤独になりやすい。細やかな声掛けを。また様子を見ながら距離を取ってラジオ体操を始める。ひとりでもできることを探す
 - 7、脱水に注意。頻りに声掛けを。
移動が困難になるとトイレが気になったり、気遣いをして飲まなかったり、のどの渇きを感じないこともあります。
 - 8、当番さんは、昼食が出るようになる日までは2名体制になります。参加者どなたに対しても、常に平等な態度で、さらに頼み上手になって、みんなと一緒に、新型コロナウイルスがあることを前提にした新しい「実家の茶の間・紫竹」づくりをしましょう。

当番(スタッフ)だけではなく、参加者とそのご家族へも新しい生活様式の実践の取組みを配布・共有し、関わっているすべての人と新しい「実家の茶の間・紫竹」を一緒につくっていかうと呼びかけています。



◇参加者同士の間隔を
できるだけ2メートル空ける



◇座る位置が分かりやすいよう
目印を張る



◇部屋の戸や窓を開け常に換気
エアコン使用の際は20分毎に
10分間の換気を繰り返す



◇マスクを着けたまま食べられる
飴を小さい袋に入れ、参加者から
目で選んで取ってもらう。



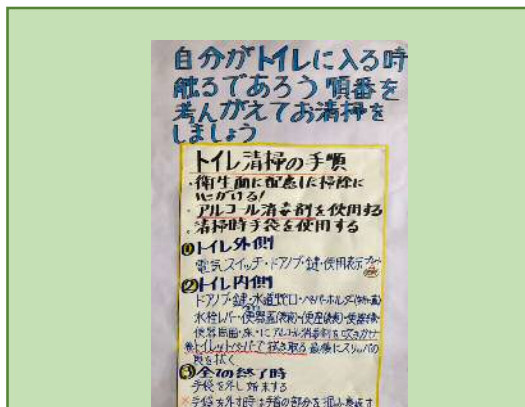
◇受付の筆記用具などは
使用後にすぐに消毒



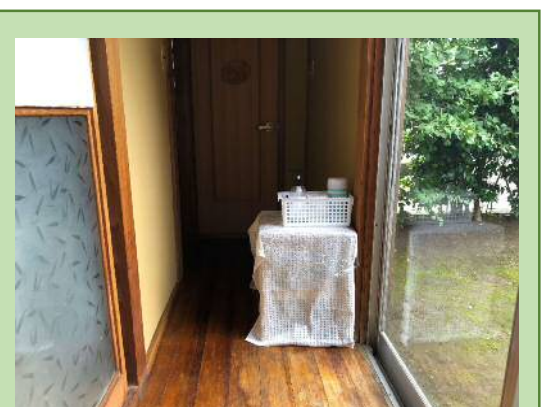
◇テーブルは裏側も消毒



◇使ったうちわは消毒



◇当番のトイレ清掃の手順を
壁に貼って情報共有



◇廊下などいたるところで
手指の消毒ができる環境づくり